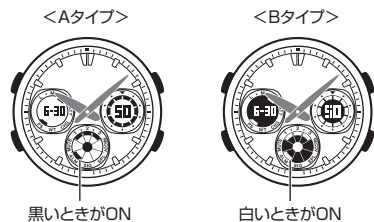


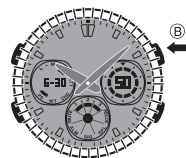
液晶表示について

液晶表示部はAタイプとBタイプ（反転液晶）とあります。Aタイプでは各インジケータがONのときに黒く点灯し、BタイプではONのときに白くなります。なお、Aタイプで説明しておりますので、Bタイプをお使いの方は黒い部分を白い部分に置き換えてご覧ください。



ライト点灯について

セット中（表示点滅）以外のどのモードのときでも、**ⓐ** ボタンを押すとライトが点灯し、暗いところでも時刻を見ることができます。



- ※直射日光下ではライト点灯が見えにくくなります。
- ※ライト点灯中にいずれかのボタンを押したり、アラームなどが鳴り出すと点灯を中断します。
- ※手動受信中はライトは点灯しません。

操作音について

モード切替時などに鳴る操作音のON/OFFを切り替えることができます。

■操作音のON / OFF 設定

セット中（表示点滅）以外のどのモードのときでも

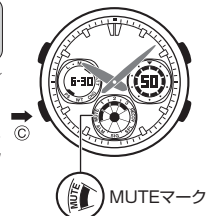
ⓐ ボタンを約3秒間押し
す

⇒確認音が鳴り、操作音のON/OFFが切り替わります。

※操作音をOFFにしているときは、MUTEマークが点灯します。

※**ⓐ** ボタンを押したときに、モードも切り替わりますので、ご注意ください。

※操作音がOFFでも、アラーム音、時報音、タイマーのタイムアップ音は鳴ります。



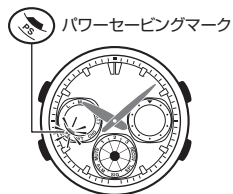
パワーセービング機能について

パワーセービング機能とは、暗いところに放置すると自動的に液晶表示を消してスリープ状態にし、節電する機能です。本機は工場出荷時に「パワーセービング機能」をONに設定してあります。

※時計が袖などで隠れている場合でも、表示が消えることがあります。

●スリープ状態になるには

- 表示スリープ
午後10時～午前6時の間、暗いところで本機を約1時間放置します。
⇒液晶表示が消え、パワーセービングマークが点滅します。
アラーム・時報の報音は行ないます。
アナログ針は運針を継続し、自動受信も行ないます。
※タイマーモード、ストップウォッチモードのときは、スリープ状態になりません。
- 機能スリープ
表示スリープのまま暗いところで6～7日間経過します。
⇒アラーム・時報の報音は行ないません。
アナログ針は運針を停止し、自動受信も行ないません。
※時計機能は正常に作動しています。



●スリープ状態を解除するには

- 本機を明るいところに置か、いずれかのボタンを押します。
- ※本機を明るいところに出した場合は、表示が点灯するまでに最大2秒かかる場合があります。

●パワーセービング機能のON / OFF

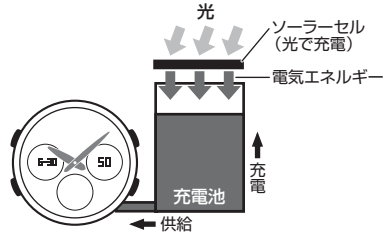
パワーセービング機能を働かせなくするには「セットのしかた」からの操作をご覧ください、パワーセービング機能をOFFにしてください。

机の中などに長期間しまっておくときは、パワーセービング機能をONにしておけば、節電効果があります。

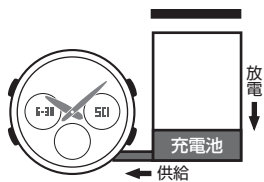
十分に光を当ててご使用ください

本機は、光で発電した電気を充電しながら使うようになっております。
安定してお使いいただくためには、本機のソーラーセルに光が当たるようにしてお使いください。

●光が当たっているときと当たらないとき
〈光が当たっているとき〉

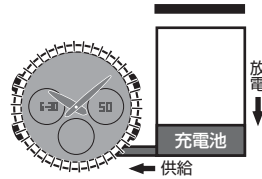


〈光が当たっていないとき〉



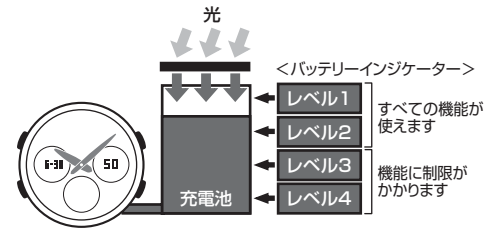
時計は光が当たらないときでも常に動いていますので、このままでは充電電池の容量が減って機能が使えなくなります。

●ライト（表示用照明）をたくさん使うと
ライトを多用すると充電電池の容量は早く減ります。

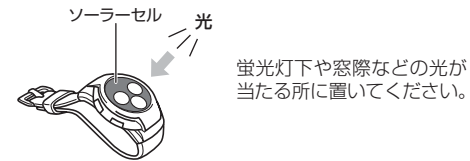


●時計に光が当たるようにしましょう

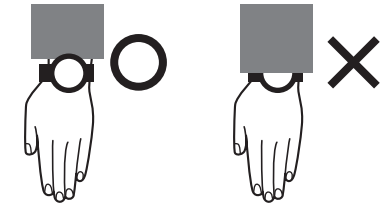
●電池容量を示すバッテリーインジケータがレベル3になると機能に制限がかかりますので、レベル1、レベル2を保つように光を当ててください。



●腕から外したときは表示面（ソーラーセル）を明るい方に向けて置くなどして、充電を心掛けてください。



●腕に付けているときはなるべく袖が表示面（ソーラーセル）にかからないように使用してください。

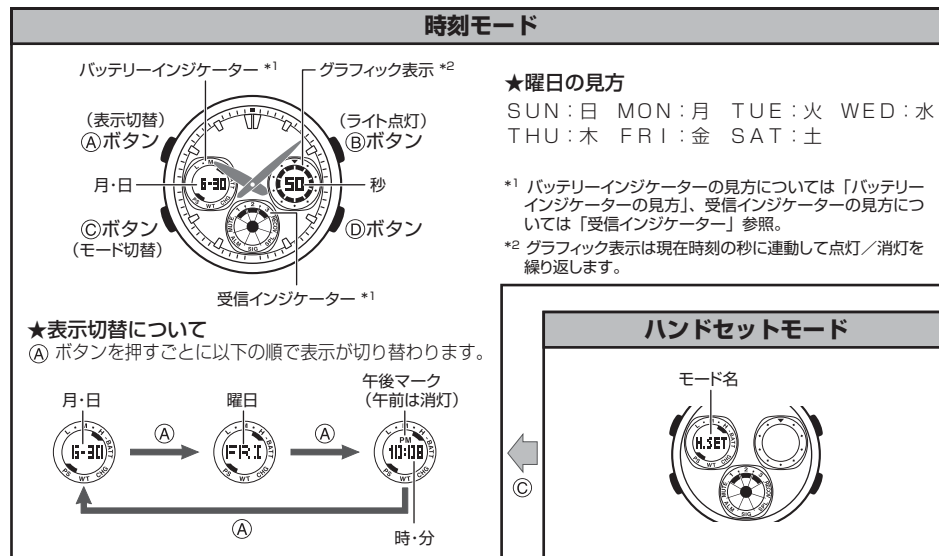


一部でも袖に隠れていると、充電効率が著しく低下します。

操作のしくみと表示の見方

◎ ボタンを押すごとに、以下の順でモードが切り替わります。

※アラームモード、ハンドセットモードのまま2～3分間すると、自動的に時刻モードに戻ります。



電源について

本機はソーラーセルで発電し、二次電池に充電しながら使うようになっております。
光が当たりにくい場所での保管および使用、長袖で本機が隠れたままの使用が長時間続きますと、二次電池が消耗して表示しなくなることがあります。
安定してご使用いただくために、なるべく光が当たるようにしてお使いください。

二次電池が消耗して時計機能が停止すると(レベル5)、メモリーされているデータや設定は消去されます。

●リカバーマークが点滅している場合

ライトやアラームなどを短時間に連続して使用し、電池に大きな負担がかかった場合、リカバーマークが点滅して、一時的に以下の操作ができなくなります。

- ・ライトの点灯
- ・アラーム・時報などの報音
- ・タイマーのタイムアップ報音
- ・電波受信

この場合は、時間がたてば電池電圧が復帰し、使用できるようになります。



リカバーマーク

●バッテリーインジケータの見方

	Aタイプ	Bタイプ (反転液晶)	
レベル1			すべての機能が使用可能
レベル2			すべての機能が使用可能
レベル3			ライト点灯不可、アラーム・時報などの報音不可、タイマーのタイムアップ報音不可、電波受信不可
レベル4			液晶表示不可、ライト点灯不可、アラーム・時報などの報音不可、タイマーのタイムアップ報音不可、電波受信不可、連針不可
レベル5			時計機能停止(時計発振不可)

※時刻モードのときにレベル3になると、「LOW」と点滅表示します。

※直射日光下などの強い光で充電した場合、バッテリーインジケータが一時的に実際の電池容量より高いレベルを表示することがあります。レベルは充電後しばらくしてから確認してください。

※レベル5になっても再度充電を行なうことで使用できます。

※レベル5から充電したときは、レベル4になると表示が点灯しますので、時刻・カレンダーを合わせてください。ただし、レベル2またはレベル1になるまで十分に光を当ててから、ご使用ください。

●充電必要サイン

レベル3や4の状態は、電池残量が極端に少なくなっています。このときは、本機を光に当てて、十分に充電を行なってください。
また、頻繁にリカバーマークが点灯する場合も電池残量が少なくなっていますので光を当てて充電してください。

●充電時のご注意

以下のような高温下での充電はお避けください。
 ・炎天下に駐車中の車のダッシュボード
 ・白熱ランプなどの発熱体に極端に近い所
 ・直射日光が長く当たって、高温になる所
 なお、極端な高温下では液晶パネルが黒くなることがありますが、温度が下がれば正常に戻ります。

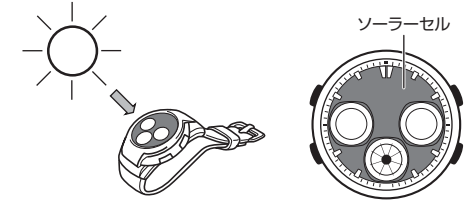


充電の際、光源の条件によっては時計本体が極端に高温になることがありますので、やけどなどをしないようご注意ください。

●充電のしかた

本機のソーラーセル部を光源に向けます。
※ソーラーセルの一部が隠れていると充電効率が下がりますので、ご注意ください。

例) 時計の置き方



※イラストは樹脂バンドの場合です。

●充電の目安

本機は一度フル充電すると、充電しなくても基本動作*に加え、下記の使用例で使用した場合に約6ヶ月動き続けます。

- 使用例
- ・ライト：1.5 秒間/日
 - ・アラーム：10秒/日
 - ・電波受信：10分/日
 - ・表示点灯：18時間/日

なお、こまめに充電を行なえば、安定してご使用いただけます。

*基本動作とは、時計内部の時刻演算処理のことです。

(1日動くのに必要な充電時間)
※左記の条件で使用した場合

環境(照度)	充電時間
晴れた日の屋外など (50,000ルクス)	約8分
晴れた日の窓際など (10,000ルクス)	約30分
曇り日の窓際など (5,000ルクス)	約48分
蛍光灯下の室内など (500ルクス)	約8時間

●各レベルに回復するための充電時間

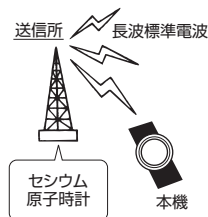
環境(照度)	充電時間		
	レベル5⇒レベル4⇒レベル3⇒レベル2⇒レベル1		
晴れた日の屋外など (50,000ルクス)	約2時間	約21時間	約5時間
晴れた日の窓際など (10,000ルクス)	約6時間	約80時間	約18時間
曇り日の窓際など (5,000ルクス)	約9時間	約129時間	約30時間
蛍光灯下の室内など (500ルクス)	約99時間	---	---

※この充電時間は目安のため、実際の環境下においては充電時間が異なる場合があります。

電波時計について

電波時計とは

正確な時刻情報をのせた長波標準電波を受信することにより、正しい時刻を表示する時計です。



電波時計は正確な標準時を受信していますが、時計内部の時刻演算処理等により、時刻表示に1秒未満のズレが生じます。

標準電波

- 日本の標準電波（JJY）は独立行政法人情報通信研究機構（NICT）が運用しており、福島県田村郡の「おおたかどや山標準電波送信所（40kHz）」および佐賀県と福岡県の境にある「はがね山標準電波送信所（60kHz）」から送信されています。
- アメリカの標準電波（WWVB）はNational Institute of Standards and Technology（NIST）が運用しており、コロラド州のFort Collinsから送信されています。

正確な時刻情報をのせた標準電波は独立行政法人情報通信研究機構（NICT）日本標準時グループが運用しております。この標準電波はほぼ24時間継続して送信されていますが、保守作業や雷対策等で一時送信が中断されることがあります。詳しい情報は独立行政法人情報通信研究機構（NICT）日本標準時グループのホームページをご覧ください。
<http://jyy.nict.go.jp>
 ※ホームページのアドレスは変更になる場合があります。

電波の受信範囲の目安

本機は、ホームタイム都市を下記のように設定すると日本の標準電波（JJY）またはアメリカの標準電波（WWVB）を受信することができます（ホームタイム都市の設定により受信する電波は異なります）。

* ホームタイム都市の設定については「ホームタイムデータ（時刻・カレンダー）の合わせ方」参照。都市コードについては「都市コード一覧」参照。

ホームタイム都市	受信電波
TYO, SEL	「おおたかどや山標準電波送信所（40kHz）」または「はがね山標準電波送信所（60kHz）」からの電波を受信します。
YVR, LAX, YEA, DEN, MEX, YWG, CHI, MIA, YTO, NYC, YHZ, YYT	コロラド州のFort Collinsからの電波を受信します。

<送信所の位置>

●条件の良いときは、送信所からおよそ1,000km離れた場所でも受信することができます。
 ※ただし、約500kmを越えると電波が弱くなりますので、受信しにくくなる場合があります。

<送信所の位置>

●条件の良いときは、送信所からおよそ3,000km離れた場所でも受信することができます。
 ※ただし、約1,000kmを越えると電波が弱くなりますので、受信しにくくなる場合があります。

※受信範囲内であっても、地形や建物の影響を受けたり、季節や時間帯（昼・夜）などによって受信できないことがあります。
 ※電波の特性により、夜間の方がより受信しやすくなります。

使用場所について

電波は、以下のような場所では受信しにくくなりますので、このような場所を避けて受信を行ってください。

※電波受信については、ラジオやテレビと同じようにお考えください。



ビルの中およびその周辺（ビルの谷間など）



高圧線、架線の近く



乗り物の中（自動車、電車、飛行機など）



家庭電化製品、OA機器のそば（テレビ、スピーカー、FAX、パソコン、携帯電話など）



電波障害の起きるところ（工事現場、空港のそばなど）



山の裏側…など

受信がうまくいかないときは、上記のような場所から離れ、受信状況の良いところで再度受信してみてください。

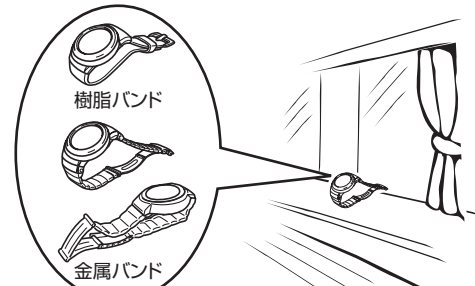
受信方法について

受信方法には、以下の2種類があります。

- ①自動受信 1日最大6回（午前12・2・3・4・5時に自動受信します）
 - ②手動受信（ボタンを押して手動受信します）
- ※1日1回受信が成功すれば、その日の自動受信は行ないません。
 ※工場出荷時には、自動受信を行なうようにセットされていますので、電波を受けるのに適した環境であれば、自動的に受信を行ない、正確な時刻を保ちます。

受信しやすくするために

本機を腕からはずし、金属をさけて下図のように時計上部（12時位置のアンテナ）を外に向けて窓際に置いてください。



- 時計本体を横向きに置くと受信しにくくなります。
- 受信中、時計を動かさないようにしてください。

受信時間は？

受信時間はおよそ2～5分です。

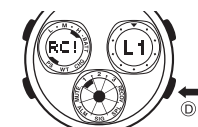
※ただし、周波数を変えて再受信するため、最大12分かかる場合があります。

* 自動受信 ON / OFF の設定については「自動受信 ON / OFF の設定」参照。

手動受信

時刻モードのとき

⑩ ボタンを約2秒間押し続けます



→ “RC!” が表示され、受信を開始します。受信中は受信インジケータが変化します。

★受信を中止するときは

⑩ ボタンを押します

※手動受信中は ⑩ ボタン以外の操作はできません。

★受信が成功すると

成功した時点で受信を終了し、時刻を修正後、修正日時を表示します。

※受信インジケータ（「受信インジケータ」参照）が点灯します（受信インジケータは、毎日午前0時に消えます）。

※修正日時表示後は、⑩ ボタンを押すか、2～3分間放置すると時刻モードの表示に戻ります。

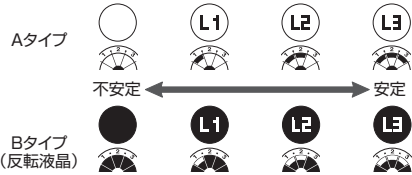
★受信が失敗すると（ERR表示）

時刻修正は行なわれず、“ERR”を表示します。

※“ERR”表示後は、⑩ ボタンを押すか、2～3分間放置すると時刻モードの表示に戻ります

●受信インジケータ

受信中は受信状態によって受信インジケータが変化します。安定状態がなるべく長く保てる場所で受信してください。



※受信しやすい場所でも、安定するまで約10秒ほどかかります。

- 受信インジケータは、受信状態の確認および使用場所を決める際の目安としてお使いください。
- 天候、時間、環境等により電波状況は変化します。

●受信日時の確認

時刻モードのとき

① ボタンを押します

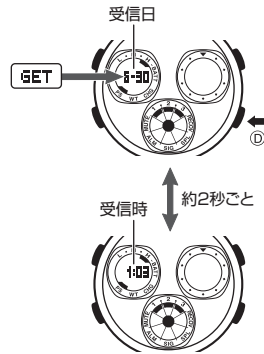
→ “GET” を約2秒間表示した後、受信により最後に修正した月日と時分を表示します。

※受信日と受信時は約2秒ごとに切り替わって表示されません。

※一度も受信に成功しなかったときは、“— — —”を表示します。

※時刻モードに戻すには、もう一度① ボタンを押します。

※何も操作をしないと、2～3分後時刻モードに戻ります。



■自動受信 ON / OFF の設定

自動受信をOFFにすると、電波の自動受信をさせなくすることができます。

※ホームタイム都市を電波の受信可能な地域に設定していると、自動受信 ON / OFF の設定を行なうことができます。

*電波を受信できるホームタイム都市については、「電波の受信範囲の目安」参照。

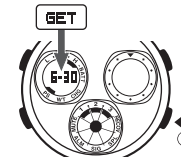
1. 受信日時を表示させる

時刻モードのとき

① ボタンを押します

→ “GET” を約2秒間表示した後、受信日時を表示します。

※何も操作をしないと、2～3分後時刻モードに戻ります。



2. セット状態にする

② ボタンを約2秒間押しします

→ “On” または “OFF” が点滅します。



3. セットする

③ ボタンを押します

→ “On” (ON) と “Off” (OFF) が切り替わります。



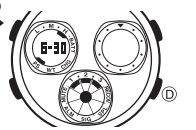
4. セットを終わる

④ ボタンを押します

→ 点滅が止まり、受信日時表示に戻ります。

※時刻モードに戻すには、① ボタンを押します。

※点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。



★ホームタイム都市が TYO、SEL の場合

● On (ON)

自動受信はONになり、「おたかどや山標準電波送信所 (40kHz)」と「はがね山標準電波送信所 (60kHz)」からの電波のうち、受信しやすい方を自動的に選びます (自動選局)。

※前回受信に成功した方の電波を優先的に受信します。

● OF (OFF)

自動受信はOFFになります。

★ホームタイム都市が YVR、LAX、YEA、DEN、MEX、YWG、CHI、MIA、YTO、NYC、YHZ、YYT の場合

● On (ON)

自動受信はONになり、コロラド州のFort Collinsからの電波を受信します。

● OF (OFF)

自動受信はOFFになります。

■受信に関するご注意

●自動受信は時刻モードとワールドタイムモードでのみ行なわれます。

●以下のときは、電波受信を行ないません。

- ・タイマー計測中のとき。
- ・バッテリーレベルが3～5のとき。
- ・リカバーマーク (RECOV) が点滅しているとき。

●電波を受信するとデジタル部が先に修正され、それに連動してアナログ部 (針) が修正されます。アナログ部が正しい時刻を示すためには電波受信前に必ずデジタル部とアナログ部の時刻を合わせてください。

●自動受信中にボタン操作を行なうと、受信を中断します。

●受信は送信されている電波の届く範囲内で行なってください。

ただし、電波の届く範囲内でも、地形や建物の影響を受けたり、季節や時間帯 (昼・夜) などによってうまく受信できないことがあります。

●電波障害により、誤った信号を受信することがあります。そのときは、再度受信を行なってください。

●本機は日本およびアメリカで送信されている電波に合わせて設定されていますので、電波が届かない地域では通常の時計としてご使用ください。

●電波受信を行わないときは、平均月差±15秒以内の精度範囲で動きます。

●極度の静電気により、誤った時刻を表示することがあります。

●受信中にアラームが鳴ると、受信を中断します。

●本機のカレンダー機能は2099年までですので、2100年以降は受信してもエラーとなります。

■こんなときには

1. 電波が受信できないのですが？

●電波の送信が中断していませんか。

電波時計が利用している標準電波 (JJY) は、独立行政法人情報通信研究機構 (NICT) により運営されていますが、保守作業や雷対策等で一時的に送信が中断されることがあります。

●電波が受信できない地域にいませんか。電波を受信ができる地域は、「電波の受信範囲の目安」をご覧ください。

●電波受信環境が悪い場所にいませんか。電波を受信できる地域であっても電波が遮断されたり、発生するノイズにより受信しにくくなります。受信はこのような場所を避けて行ってください (「使用場所について」参照)。

●ホームタイム都市が間違えて設定されていませんか。ホームタイム都市の設定が「電波の受信範囲の目安」に記載されている都市以外の場合は、電波受信を行ないません。「セットのしかた」をご覧ください。

●自動受信設定がOFFになっていませんか。「自動受信 ON / OFF の設定」をご覧ください。

●自動受信を行なう時間帯 (午前12・1・2・3・4・5時) に、時刻モードまたはワールドタイムモード以外になっていませんか。自動受信は時刻モードまたはワールドタイムモードで行なわれませんので、自動受信時間帯は他のモードに切り替えしないでください。

2. 電波を受信したのに、時報と時計の表示が若干ずれるのですが？

●電波時計は標準電波を受信して時刻修正を行ないませんが、時計内部の演算処理等により若干 (1秒未満) のずれが発生します。

3. 電波を受信したのに、時刻がちょうど1時間進んでいるのですが？

●サマータイムの設定がONになっていませんか。「セットのしかた」をご覧ください。

4. 電波を受信したのに、時刻がぐるぐるしているのですが？

●ホームタイム都市の設定が東京 (TYO) ではなく、外国都市に設定されていませんか。「セットのしかた」をご覧ください。

5. デジタル部とアナログ部の時刻が合わないのですが？

- 電波を受信するとデジタル部が先に修正され、デジタル部の時刻を進めた(戻した)分だけ、アナログ部も修正されます。針位置がずれていると電波受信しても正しい時刻を示しませんので、「アナログ部(針)の修正」をご覧ください、アナログ部をデジタル部の時刻に合わせてください。

6. 自動受信 ON / OFF の設定ができないのですが？

- ホームタイム都市の設定が「電波の受信範囲の目安」に記載されている都市以外の場合は、自動受信 ON / OFF の設定を行なうことができません。「セットのしかた」をご覧ください、ホームタイム都市を正しく設定してください。

7. 自動受信は何時頃行なわれるのですか？

- 自動受信は電波状況の良い夜間に行なわれます。夜間にお休みのときは、電波送信所方向の窓際に時計の12時位置(受信アンテナ部)を外に向けて置いてください。

8. 手動受信のしかたは？

- 時刻モードのときに[D] ボタン(右下)を約2秒間押し続けます。「RC！」が表示され手動受信が開始されますので、電波送信所方向の窓際に時計の12時位置(受信アンテナ部)を外に向けて置いてください。

9. 受信日時確認のしかたは？

- 時刻モードのときに[D] ボタン(右下)を1回押します。電波受信が成功して、時刻修正された日時が表示されます。時刻モードに戻すには、もう一度[D] ボタンを1回押しします。

- ★電波受信ができないときや受信しても時刻が合わないときなどは、設定を確認してください。
※本機は工場出荷時および電池交換後には、以下の内容でセットされています。

自動受信		自動受信する
ホームタイム都市	TYO	東京
サマータイム		電波受信による自動切替

ワールドタイムの使い方

ワールドタイムモードでは、世界48都市(29タイムゾーン)の時刻を簡単に知ることができます。

- ※ワールドタイムモードに切り替えると、前回このモードで最後に見た都市の時刻を表示します。

■ご注意

ワールドタイムが合っていないときは、時刻モードの時刻およびホームタイム都市設定を確認し、違っているときは正しくセットしてください。

- *セットについては「ホームタイムデータ(時刻・カレンダー)の合わせ方」参照。

「操作のしくみと表示の見方」にしたがって[C] ボタンを押し、ワールドタイムモードにします。

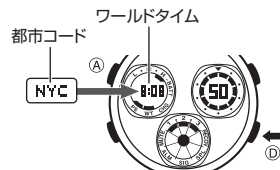
■都市のサーチ

ワールドタイムモードのとき

[D] ボタンを押します

→[D] ボタンを押すごとに都市コードが切り替わります。都市コードを表示後、その都市の時刻を表示します。

- ※[D] ボタンを押し続けると早送りします。



- ※[A] ボタンを押すと、表示している時刻の都市コードを約2秒間表示します。

ストップウォッチの使い方

「操作のしくみと表示の見方」にしたがって[C] ボタンを押し、ストップウォッチモードにします。

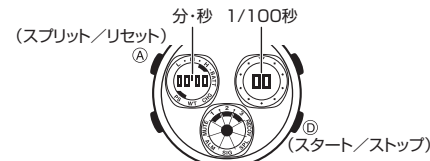
ストップウォッチは1/100秒単位で59分59秒99(60分計)まで計測できます。計測範囲を超えると、自動的に0に戻って計測し続けます。

■計測のしかた

ストップウォッチモードのとき

[D] ボタンを押します

- [D] ボタンを押すごとに、計測がスタート/ストップします。計測中はグラフィック表示が点灯/消灯します。



- ★計測中に[A] ボタンを押すと、表示は止まりますが、内部では計測を続けるスプリット計測となります(スプリットマーク点灯)。スプリット計測中にモードを切り替えると、スプリットは解除されます。
- ★計測終了後[A] ボタンを押すと、計測値が0に戻ります(リセット)。

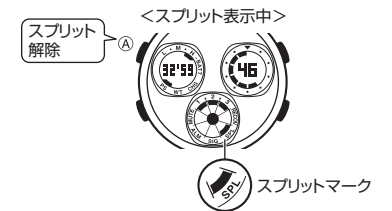
●通常計測



<積算計測>

ロスタイムのあるときは、ストップ後リセットせずに[D] ボタンを押して再スタートすれば、表示タイムに引き続き計測を始めます。

●スプリットタイム(途中経過時間)の計測



●1・2着同時計測



■サマータイム(DST)について

サマータイムとはDST(Daylight Saving Time)とも言い、通常の時刻から1時間進める夏時間制度のことです。サマータイムの採用時期は国や地域により異なりますし、採用していないところもありますのでご注意ください。

■サマータイムのON/OFF設定

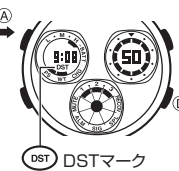
準備: ワールドタイムモードのとき、[D] ボタンを押して、設定したい都市を選びます。

[A] ボタンを約2秒間押しします

→[A] ボタンを約2秒間押すごとにサマータイムのON/OFFが切り替わります。

- ※サマータイムがONのときは、DSTマークが点灯して、通常の時刻より1時間進みます。

- ※各都市ごとにサマータイムを設定することができます。ただし、ホームタイムで設定している都市を表示しているときはサマータイムの設定はできません。



■都市コード一覧

コード	時差	都市名	コード	時差	都市名
PPG	-11	パゴパゴ	ROM	+1	ローマ
HNL	-10	ホノルル	BER	+1	ベルリン
ANC	-9	アнкаレジ	STO	+1	ストックホルム
YVR	-8	バンクーバー	ATH	+2	アテネ
LAX	-8	ロサンゼルス	CAI	+2	カイロ
YEA	-7	エドモントン	JRS	+2	エルサレム
DEN	-7	デンバー	MOW	+3	モスクワ
MEX	-6	メキシコシティ	JED	+3	ジェッダ
YWG	-6	ウィニペグ	THR	+3.5	テヘラン
CHI	-6	シカゴ	DXB	+4	ドバイ
MIA	-5	マイアミ	KBL	+4.5	カブール
YTO	-5	トロント	KHI	+5	カラチ
NYC	-5	ニューヨーク	DEL	+5.5	デリー
CCS	-4	カラカス	DAC	+6	ダッカ
YHZ	-4	ハリファックス	RGN	+6.5	ヤンゴン
YYT	-3.5	セントジョンズ	BKK	+7	バンコク
RIO	-3	リオデジャネイロ	HKG	+8	香港
RAI	-1	ブライア	SEL	+9	ソウル
LIS	+0	リスボン	TYO	+9	東京
LON	+0	ロンドン	ADL	+9.5	アデレード
BCN	+1	バルセロナ	GUM	+10	グアム
MAD	+1	マドリッド	SYD	+10	シドニー
PAR	+1	パリ	NOU	+11	ヌーメア
MIL	+1	ミラノ	WLG	+12	ウェリントン

※この表は2005年6月現在作成のものです。

※この表の時差は協定世界時(UTC)を基準としたものです。

タイマーの使い方

「操作のしくみと表示の見方」にしたがいⓐボタンを押し、タイマーモードにします。

タイマーは1分単位で60分までセットできます。セットした時間を経過(タイムアップ)すると、10秒間電子音が鳴ります。

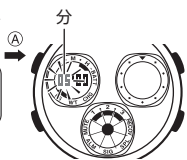
■ タイマー時間のセット

1. セット状態にする

タイマーモード(計測リセット状態)のとき

ⓐ ボタンを約2秒間押しします

⇒「分」が点滅します。



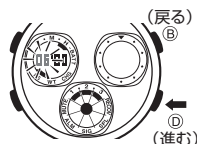
2. 点滅箇所をセットする

ⓐ または ⓑ ボタンを押しします

⇒ ⓐ ボタンを押すごとに点滅箇所の数字が進み、ⓑ ボタンを押すごとに戻ります。

※ ⓐ・ⓑ ボタンとも、押し続けると早送りします。

※ 1分単位で60分までセットできます。

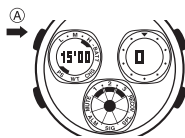


3. セットを終わる

ⓐ ボタンを押しします

⇒ 点滅が止まり、セット完了です。

※ 点滅表示のまま2~3分間すると、自動的に点滅が止まります。



アラーム・時報の使い方

「操作のしくみと表示の見方」にしたがいⓐボタンを押し、アラームモードにします。

アラームモードでは、時分を設定でき、設定した時刻になると10秒間電子音が鳴ります。また、毎正時(00分)に時報を鳴らすこともできます。

■ アラーム時刻のセット

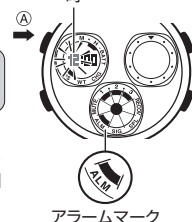
1. セット状態にする

アラームモードのとき

ⓐ ボタンを約2秒間押しします

⇒「時」が点滅します。

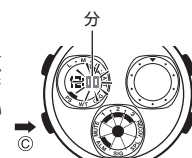
※ アラームマークが点灯して、自動的にアラームONになります。



2. セット箇所を選ぶ

ⓐ ボタンを押しします

⇒ ⓐ ボタンを押すごとに点滅箇所が「時」⇔「分」で移動します。セットしたい箇所を点滅させます。



3. 点滅箇所をセットする

ⓐ または ⓑ ボタンを押しします

⇒ ⓐ ボタンを押すごとに点滅箇所の数字が進み、ⓑ ボタンを押すごとに戻ります。

※ ⓐ・ⓑ ボタンとも、押し続けると早送りします。



2~3の操作を繰り返して、アラーム時刻をセットします。

※「時」のセットのとき午前/午後(P)、または24時間制にご注意ください。

4. セットを終わる

ⓐ ボタンを押しします

⇒ 点滅が止まり、セット完了です。

※ 点滅表示のまま2~3分間すると、自動的に点滅が止まります。

■ タイマーの使い方(減算計測のしかた)

タイマーモードのとき

ⓐ ボタンを押しします

⇒ ⓐ ボタンを押すごとに計測がスタート/ストップします。

※ 計測は1/10秒単位で行ないます。

※ 計測中はグラフィック表示が点灯/消灯します。



★ 計測ストップ後 ⓐ ボタンを押すと、計測前の表示に戻ります(リセット)。

★ ロスタイムがあるときは、ⓐ ボタンでストップ後、もう一度 ⓐ ボタンを押すと表示タイムに引き続き計測を始めます。

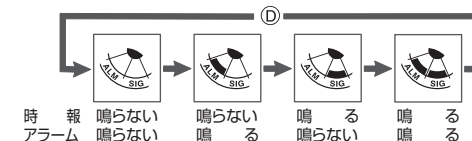
■ アラーム・時報のON/OFF設定

アラームモードのとき

ⓐ ボタンを押しします

⇒ ⓐ ボタンを押すごとにアラームマークと時報マークが点灯/消灯を繰り返します。

※ それぞれのマークが点灯しているときがONとなり、アラーム・時報が鳴ります。



■ タイムアップになると

セットした時間を経過すると、10秒間電子音が鳴り、タイムアップを知らせます。

■ 鳴っている電子音を止めるには

いずれかのボタンを押すと音が止まります。

■ 鳴っている電子音を止めるには

いずれかのボタンを押すと音が止まります。

■ モニターアラーム

アラームモードのとき、ⓐ ボタンを押し続けると、押し続けている間アラーム音が鳴ります。

ホームタイムデータ(時刻・カレンダー)の合わせ方

ホームタイムデータのセットとは、お使いになる地域(都市)や時刻・カレンダー等を合わせることで、

※ホームタイムデータのセットや修正は時刻モードで行ないます。

※パワーセービング機能のON/OFF設定も以下の操作で行ないます。

デジタル部とアナログ部の時刻を同時に修正するときは、デジタル部の時刻を先に修正してください。

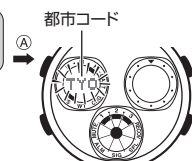
■セットのしかた

1. セット状態にする

時刻モードのとき

A ボタンを約2秒間押しします

⇒都市コードが点滅します。



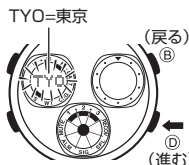
2. ホームタイム都市を選ぶ

D または **B** ボタンを押します

⇒**D** ボタンを押すごとに都市コードが進み、**B** ボタンを押すごとに戻ります。本機をお使いになる地域(都市)を選びます。

*「都市コード一覧」参照。

※**D**・**B** ボタンとも、押し続けると早送ります。



3. 「サマータイム切替」にする

C ボタンを押します

⇒サマータイムの切り替えになります。



4. 切り替える

D ボタンを押します

⇒**D** ボタンを押すごとにサマータイムの設定が切り替わります。



● **A (AUTO)**
電波受信により、自動的にサマータイムのON/OFFが切り替わります。

● **OF (OFF)**
サマータイムはOFFになります(通常時間)。

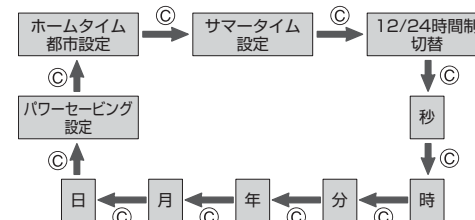
● **On (ON)**
サマータイムはONになります(夏時間)。
※セット完了後、DSTマークが点灯して、通常の時刻より1時間進みます。

※ホームタイム都市が電波受信の可能な都市(「電波の受信範囲の目安」参照)以外の時は、「OF (OFF)」⇔「On (ON)」で表示が切り替わります。

5. セット箇所を選ぶ

C ボタンを押します

⇒**C** ボタンを押すごとに以下の順で点滅箇所が移動しますので、設定したい箇所を点滅させます。



6. 点滅箇所をセットする

D または **B** ボタンを押します

⇒**D** または **B** ボタンで点滅箇所をセットします。

a. 「12/24時間制切替」のとき

D ボタンを押すごとに12時間制表示「12H」と24時間制表示「24H」が切り替わります。



b. 「秒」セットのとき

D ボタンを押すと「00秒」からスタートします。

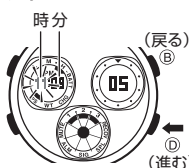
※秒が00～29のときは切り捨てられ、30～59のときは1分繰り上がって「00秒」になります。(時報は「時報サービス117番」が便利です)



c. 「時」「分」「年」「月」「日」セットのとき

D ボタンを押すごとに点滅箇所の数字が進み、**B** ボタンを押すごとに戻ります。

※**D**・**B** ボタンとも、押し続けると早送りができます。



d. 「パワーセービング設定」のとき

D ボタンを押すごとにパワーセービング機能のOn (ON) / Off (OFF) が切り替わります。※パワーセービング機能をONにすると、セット完了後、パワーセービングマークが点灯します。



C ボタンを押して点滅箇所を移動させ、**D** または **B** ボタンを押してセットする操作を繰り返して、時刻・カレンダーを合わせます。

※「時」のセットのとき午前/午後(午後マーク点灯)、または24時間制にご注意ください。

※「年」は00(2000年)～99(2099年)の範囲内でセットできます。正しくセットすると、自動的に曜日が出されます。

※カレンダーはうるう年および大の月、小の月を自動判別するフルオートカレンダーです。

7. セットを終わる

A ボタンを押します

⇒点滅が止まり、セット完了です。

※点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。

<シンクロ機能>

デジタル部の時刻を修正すると、アナログ部(針)も連動して修正されます。

※針の修正は、デジタル部の修正に合わせて時計回り(正転方向)に送られます。

※針の修正は、デジタル部の修正時刻によって時間がかかることがあります。

■アナログ部(針)の修正

アナログ部の時刻とデジタル部の時刻が合っていないときは、ハンドセットモードで合わせてください。

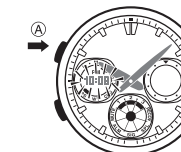
準備: 「操作のしくみと表示の見方」にしたがい**C** ボタンを押し、ハンドセットモードにします。

1. セット状態にする

ハンドセットモードのとき

A ボタンを約2秒間押しします

⇒「時・分」が点滅します。



2. アナログ部を合わせる

D ボタンを押します

⇒**D** ボタンを押すごとに時計回りに1/3分(20秒)ずつ進みますので、デジタル部の「時・分」丁度にアナログ針を合わせます。※押し続けると早送ります。



<針の自動早送り>

●**D** ボタンを押し続けると早送り中に**B** ボタンを押すと、ボタンを離しても針が進み続けます。
●自動早送りは時計が一回りするか、いずれかのボタンを押すと止まります。

3. セットを終わる

A ボタンを押します

⇒点滅が止まり、分針はそのときの「秒」に合わせて自動的に修正されます。

※点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。